（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぱんはうすさくら北九州中津口教室			
○保護者評価実施期間	令和　8年　1月　13日	～	令和　8年　1月　31日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	30	（回答者数）	25
○従業者評価実施期間	令和　8年　1月　13日	～	令和　8年　1月　31日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	12	（回答者数）	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和　8年　2月　26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団活動と個別支援のバランス	毎日の集団プログラムは協力課題や感覚遊び、ルールのある活動等を取り入れ、社会性や自己調整力、他者理解を育む機会を設けている。また、心理士及び作業療法士による個別支援を実施し、認知面、情緒面、感覚面など専門的視点から評価と支援を行っている。集団で見られた課題を個別支援で補い、個別での成長を集団場面で活かすなど、相互に連動させた支援体制を構築している。	集団活動と個別支援の連携をより強化するため、活動内容や個別支援の目標を事前に共有し、意図的に結びついた支援計画を作成する。また、活動後の振り返りや記録を充実させ、集団での様子を個別支援に活かす仕組みを更に整備する。
2	保護者との連携体制	送迎時に日常的なフィードバックを行い、その日の様子や成長課題を共有している。定期的な面談や参観の機会を設け、支援内容の理解も深めている。また、家庭での様子も丁寧に聞き取り、多方向の情報共有を通して、家庭と事業所が同じ方向性で支援できるように連携を図っている。	送迎時の口頭共有に加え、必要に応じて記録や資料を活用し、より具体的で分かりやすい情報提供を行う。また、保護者向け学習会や相談会を検討し、家庭での対応方法や関わり方の共有を強化する。家庭と事業所が継続的に支援方針を確認できる体制づくりを進めていく。
3	個々の発達段階に応じた支援の提供	日々の観察及び専門職による評価をもとにアセスメントを行い、個別支援計画に反映している。定期的にケース会議を行い、支援方針の検討を見直しを行うとともに職員間で情報共有を徹底し、一貫性のある支援を提供している。	アセスメントと質を図るために、評価方法や視点の共有を勧め、客観性の向上を図る。ケース会議の内容をより具体的な支援目標や行動レベルに落とし込み、実践との結びつきを強化する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流ができる機会が少ない。	保護者の就労状況等により、交流機会を設定しても参加が難しい場合がある。	小規模な茶話会やテーマ別懇談会など参加しやすい保護者交流の場を設ける。
2	園や関係機関等との継続的な連携体制が十分に構築できていない。	関係機関との情報共有の仕組みが体系化されていない。	園や関係機関との定期的な情報共有の機会を設定し、連携体制を構築する。
3	地域交流の機会が少ない。	地域交流を企画、調整する時間が十分に確保できていない。	年間計画の中に、地域交流や連携機械を明確に位置づけ、計画的に実施する。